

針, 木山行報告書

S. 43. 5. 31 ~ 6. 2.



信州大学山岳会
女子パーティー

山行を終えて思うこと。

牧田 あつ子

私達二年生に女子の後輩が持てたのは非常にプラスになることです。一年生を指導することによって自分に責任を持ち、慎重になり自分自身を振り返り、技術を磨く。今までの合宿とは違い、男子部員に気がおなく伸び〜とした気持ちで指導し、行動し、話しをする。

自分たちで山行を料つ楽しさ。(ま、と男子部員にもわかってもらえませんが)一、二年生しかいなく不安なこともあります。より良い山を、より困難な所に懸かを感じ、水を求める前に安全オーとして徐々に進んで行きたいと思ひます。

今回の山行は日教が短かかつたせいか幸いにしてたいミスもなく楽しい山行ができたのは誠に喜ばしい事です。あずか二年目にしてリーダーをやらされるとは……リーダーとして至らなかつた点もありすまないと思ひました。リーダーをやつておつた今まで気がつかなかつた事に気がつき考えさせられる事も多くありました。もしかしたらこんなに早くリーダーをやらしてもらえるのも惜しいことなのかもしれません。メンバーも自分の役割りをよく演じていて良かったと思ひます。今後の山での下界での活動も自分は何をすれば良いのか、何をすべきかよく心得て動くことが大切だと思ひます。一年生は二年生、上級生の行動を「明日は我身」と思ひて観察し、批判して、いたら良いのではないのでしょうか。

最後に今山行に参加してくださつたSACのお偉ら方二人をはじめ他の男子部員の方々今後の私達の活動に対してどうか暖かい目で見つて批判・協力・助言して下さい。お願ひします。

おわり

参加メンバー

リーダー 牧田. オブザーバー 扇能. 吉安.
中田. 森下. 清水. 宮田.

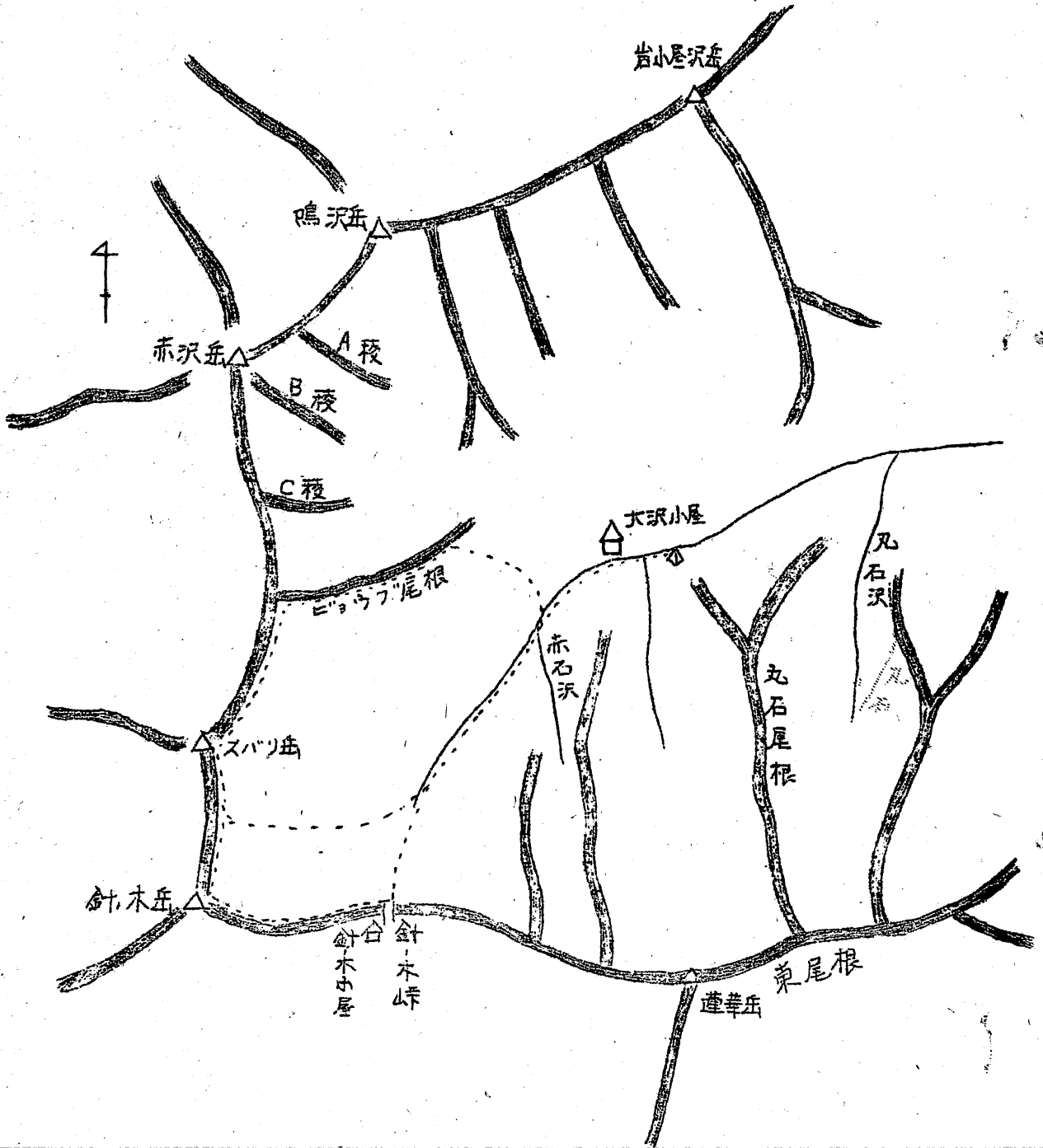
行動概要

5月31日 14:35 松本発
天気 晴れ 15:36 大町
扇沢
17:00 大沢小屋下 (テント設営)

6月1日 5:00 エッセン
天気 曇り 0 雪上訓練パーティー ㄥ 牧田. 扇能. 森下. 清水. 宮田
5:45 出発
6:45
? 雪上訓練
13:45
14:20 テニバ着.
0ピョウフ尾根パーティー ㄥ 中田. 吉安.

6月2日 4:00 エッセン (全員 ㄥ 牧田)
天気 晴れ 4:45 出発
05 雨 6:40
? 雪上訓練
9:00
? 昼食
9:30
10:00 針, 木峠
11:30 針, 木岳ピョ-フ
13:10 テニバ着.
撤収
13:50 下山
14:15 扇沢

針木岳周辺概念図



反省と感想

扇能清

※最近まで女子部というものは遠い存在であり、身近なものとして頭を悩まされることはなかった。女子部を作るには……? できたなら……? このようなことを考えようとしなかった。故に現在までの女子部独立云々の過程も、何が原因でできたのかも全く知らない。昨年度より部の SAC の いろいろなことに関係するようになった。後知った少しの資料で今考えられる(感じられる)ことを書いてみたい。

女子部員が男子部員に混じらぬでも、下でも活動して来た。その中において0年生部員であると胸を張る、言うことが出来たであろうが男子部員は“女子部”からま……”というように見る。女子部員は特に身体的に優り得ないことより消極的な発言・行動となり表われる。このようなムードが「なかったとは思われない。その消極的なもののために特に上級生部員となり表わす。時には支障をきたす。

女子 party の *team work* に必要な適切な指示・行動ができなくなる。member 1人1人が自分の立場も意識できずそのあるべき態度もわからないうちに。今年度の2年生は2年生でありながら *Leadership* ということも字がなければならぬ。しかし2年生としての *membership* ができず後 *Leader* としてのことも解るものであろう。女子部員だからこそ男子部員だからこそというものを認めそのような違いがある、そこを面白い部になるんだという意識を必要とするのではなからうか。女子部があるんだということになれば女子部員は自分の責任(部の中において自分はこういう part をうけもっているんだという意識)というものを持つことができずしてそれが部活動の原動力にもなろう。

ことはだけじゃない女子部というものが部の中に意識されにのっとり女子の良い面をもっと表面に現わす活動ができれば部員確保への不安もやわらぐのではなからうか。それが女子山岳部のあり方へもつたがるものであろう。男子部の垂流としての活動はしてもらいたくないものである。男子との違いを認めつつ、同じ SAC の一員として女子部・男子部のカラーにとどまることのないようにしてゆきたいものである。

今本行の感想としてうまくやちよるじゃねえかと……

2年生は自分で動き動きながら指導してゆくという態度大変良かったと思います。

中田 法子

※これから女子だけがやっという時にあたり一番大切なものはやはり女子間の団結や部をよりよく理解することであると思う。そんな意味を考えると今回の合宿は、多少短かくはあったが技術の成長はともあれ、お互いのコミュニケーションの糸口が解かれたと思う。

新人合宿に入らなかったというハンディも個人の、また、お互いの協力はより完全カバーできるものだと思う。慣れないことばかりで一年生はたいへんだったと思うが、これから反省会に出た点などから徐々に改善していきなさい。部を理解してくるにつれおのずからわかるようになる。我々二年生については充分なる雪上訓練ができた、まだまだ未熟な我々であるので雪上技術ももっともとのやる必要があると感じた。

天気も幸いに持ち、まああの山行だったと思います。

授業の関係で一年生の相談相手にもなれず、買い出しに関しても迷惑のかけどうしですみませんでした。

森下 妙子

※一年の女子も二人はやはり女子だけができよかった。二年生も技術は多少みかけたし、一年間で身につけたことを少しでも一年生に教えてあげられ、あらためて自分の不備な点を見つけたりできた。二日間だけだったが充実していたと思う。テニワークもよくできたし、一年生もよく動いてくれた。これからの女子の山行のワンステップになったと思う。

清水 太郎

※反省会でボニマリとやられたことが思い出すのをうさんくさいものにしていない訳でもありませんが、荷物を背負ってフラフラ歩いた時、考えたこと、シラフの中で聞いた川の音、本当にきれいだった朝焼け、かゆい小鳥の声、いろんな草花、コバルトブルーの空などを思い出すことは楽しいことです。身体は苦痛は不思議と思い出されません。

私には山に登るという行為そのものよりもきびしい状態の中でどんな心でいたのかということの方が興味深く思われます。とにかく得ることはたくさんありました。荷物の作り方、自分のことは自分ですること、行動をすばやく正確にすること、極力他人を侵襲しないことなどです。これだけは何となくものにできたらすばらしいことです。三日間の時間やお金などに代えられないことです。

これらの教訓をこれからの生活に役立てようと思っております。

宮田 千代子

※感想といっても山行中夢中ですから、何かを感じとる程の余裕もありませんでした。雪上訓練は初めてでしたが、だいたい想像していたとおりでした。山へ入る前日、部屋で相当おどかされて覚悟していたもので、3日目は前日の疲れとトレーニング不足から相当まいりましたことを後悔しています。でも体は疲れながらも歩こう、という気持ちだけでも歩けることを知りました。

私の様な精神的な弱さを持っている者でもどうにか歩けたことはうれしかったです。

「かが大町駅に着いても“楽しいから”とか“おもしろから”という気持は薄かんでいきました。入りにくがあると“おもしろからよ”と答えようの“針、木の雪溪で休みの時、まわりの山をボニマリとながめたあの時の“山”が一番きれいで、今はあれだけが心に残っています。

発行 昭和43年7月1日
発行所 信州大学山岳会
女子部
印刷所 信州大学農学部自治会堂